

和歌山県田辺湾のミドリイガイ (二枚貝綱, イガイ目)

田名瀬 英 朋*・久保田 信*

Hidetomo TANASE and Shin KUBOTA: A green mussel *Perna viridis* (Bivalvia, Mytiloida) from Tanabe Bay, Wakayama Prefecture, Japan

ミドリイガイ *Perna viridis* (LINNAEUS, 1758) は、台湾以南、インド・西太平洋に広く分布する亜熱帯・熱帯系のイガイ科の二枚貝であるが、わが国でも1967年以降に、東京都から高知県にかけての太平洋岸や瀬戸内海の一部で発見されるようになった(梶原, 1984; 朝倉, 1992; 有山, 1992など)。

和歌山県下では、日高郡南部町の堺漁港で1個体の死殻が1980年3月に発見された(石川, 1984)のを最初に、1992年の8月と11月に西牟婁郡串本町の潮岬の海岸で約30個体の死殻(紀伊民報, 1993)が確認されている。しかし、両地域で採集された貝殻は付着基盤から剝離しているため、現場近くで成長したものか、人為的に投棄されたものかの判別がつかない。最近、1996年1月16日に田辺湾の神島(田辺市)付近に浮かべてあった養殖用のブイに付着していた数個体の貝殻が採集された(紀伊民報, 1996)。筆者らは、上記の神島付近からの採集と時を同じくして、田辺湾の3ヶ所(西牟婁郡白浜町)から本種を採集したので報告する。

(1) 古賀浦の浮き棧橋

1996年1月18日 1個体

前後軸長 26 mm

設置されて10年以上を経過した浮き棧橋の海面下に付着している多数のチレニアイガイ *Mytilus edulis galloprovincialis* LAMARCK に混じっているのを採集した(図1)。この個体は棧橋に

付着した状態で死亡しており、軟体部はまったく残っておらず、右殻の内面に付着したばかりのウズマキゴカイが3個体みられた。

(2) 阪田の養魚用いけす

1996年2月4日 2個体

前後軸長 28 mm, 17 mm

約2年間、海面で使用した後に交換された発泡スチロール製の浮き樽用保護カバーに付着している多数のチレニアイガイに混在していた。2個体とも新鮮な軟体部が残っていた(図2)。

(3) 大蛇島の養魚用いけす

1996年2月8日 5個体

前後軸長 42 mm, 33 mm, 31 mm

31 mm, 20 mm

約3年間、海面で使用した後に交換されたイケスで、多数のチレニアイガイに混じていた。5個体とも生きた状態で採集した。

全個体とも殻皮は淡色あるいは濃色の緑色で、殻の内面は真珠光沢が強く、前閉殻筋の欠如、前後に分離した後収足筋、殻頂にみられる1個の小歯などの形質状態は本種の特徴(BAL & RAO, 1990)に合致した。

植田・萩原(1990)による神奈川県江の島での本種の成長の様子からみて、本個体は付着後1年以内のものと推定される。また、近年の田辺湾での付着動物の生息調査(原田・小松, 1995; KUBOTA, 1994, 未発表データ)

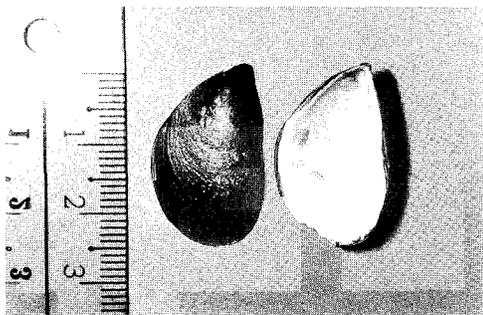


図1 古賀浦のミドリイガイ

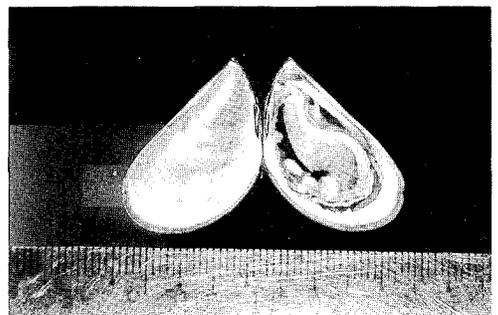


図2 阪田のミドリイガイ(軟体部)

* 京都大学理学部附属瀬戸臨海実験所(〒649-22 和歌山県西牟婁郡白浜町臨海)

では本種が確認されていないことなどから、田辺湾ではミドリイガイは偶来種であると思われる。今回確認された3地点も含めて、本種の成長の有無や越冬・繁殖の可能性について観察を継続している。

おわりに、養魚用イケスの設置状況についてご教示いただいた近畿大学水産養殖種苗センターの宮下 盛氏、中務 寛氏に感謝の意を表す。

引用文献

- 朝倉 彰. 1992: 東京湾の帰化動物—都市生態系における侵入の過程と定着成功の要因に関する考察—。千葉中央博自然誌研究報告, **2**(1), 1-14.
- 有山啓之. 1992: 大阪湾のミドリイガイ. *Nature Study*, **38**(1), 9-10.
- BAL, D. V. & K. V. RAO. 1990: *Marine Fisheries of India*, first revised edition. 472 pp. Tata McGraw-Hill Publishing Co. Ltd., New Delhi.
- 石川 裕. 1980: 南部町界でとれたミドリイガイ. *南紀生物*, **22**(1), 7.
- 原田英司・小松 結. 1995: 田辺湾域における潮間帯岩礁性動物の分布. *瀬戸臨海実験所年報*, **8**, 24-34.
- 紀伊民報. 1993年1月1日: 県下初のミドリイガイ—潮岬の海岸で繁殖しているかも—.
- . 1996年1月19日: ミドリイガイを発見.
- 梶原 武. 1984: 高知県古満目湾のミドリイガイについて. *付着生物研究*, **5**(1), 55.
- KUBOTA, S. 1994: Reproductive season and some biological notes on a bivalve-inhabiting hydrozoan *Eugymnanthea japonica* (Thecata-Leptomedusae: Eirenidae) at Shirahama, Tanabe Bay, Japan, with comparison of related species. *Publ. Seto Mar. Biol. Lab.*, **36**(4), 277-282.
- 植田育男・萩原清司. 1990: 江の島のミドリイガイその後. *南紀生物*, **32**(2), 99-102.

南 紀 生 物

第38巻 第1号 別刷

Reprinted from
NANKISEIBUTU: The Nanki Biological Society

Vol. 38, No. 1
May. 1996